

平成20年7月10日

参加艇各位殿

今年の大会は梅雨前線も北上し大会前日早朝には激しい雷雨で真夏がそこまでやって来た感があります。さて今回はスタート時点では風もなく、逆潮でベストコンディションではなかったと思います。いかにアンカーリングをし、又どのタイミングでアンカーリングをはずすかが勝負どころとなってしまいました。後半はそこそこの風が吹きヨットらしい走りのできたものと思われます。愛艇の走りはいかがでしたでしょうか。今回の22回大会は34艇の多数の参加と又前夜祭では100名弱の参加を頂き市長杯ヨットレースを盛大に行うことができ、誠に有り難うございました。来年も7月第1日曜にお会いできる事を楽しみにしています。

笠岡市長杯ヨットレース実行委員会
藤原 哲雄

レース中のスナップ写真を貼り付けます

漂流中



微風のスピラン



前夜祭のスナップ



第22回笠岡市長杯ヨットレースが8日、笠岡諸島の白石島を発着点に行われ、県内外からのクルーザー型ヨット35艇が瀬戸内海の多島美の中、白熱したレースを繰り広げた。船の大きさ別に2部門で競技。白石島から浅口市寄島町沖、北木島東岸を經由する約20kmのコースを、船の性能で付けられたハンディと所要時間で競った。各艇は午前9時のスタート直後、風速2.5m/sの微風状態に苦しんだが、風が吹

■笠岡市長杯ヨットレース
き始めた後半は一気にスピードアップ。気温30度を越す暑さの中、乗員は巧みに帆の角度を調節して風をとらえ、ヨットを走らせた。
レースの結果、クラス1は疾風(尾道市)、エルベント(岡)、エスプリ(三豊市)の順。クラス2は栗嶺などで所定時間内に完走したのはトウメイ(浅口市)のみだった。(金原正明)

風ととらえ自在に

笠岡でヨットレース 中国新聞掲載

34艇、風と我慢比べ
笠岡市長杯ヨットレースが6日、同市の白石島沖を発着点とする延長約20kmのコースであった。岡山、広島、兵庫、香川、愛媛県の三十四艇が出場した。
艇の大きさ別の二部門に分かれスタート、約一時間半の無風状態の後、風速約3m/sの風が吹く我側の展開となった。乗員は帆をかけた時など、操船を工夫。次第に速度を上げ、浅口市寄島町沖を通る三角形のルートで帆走時間を競った。
レースは笠岡ヨットクラブなどでつくる実行委員会が主催した。(杉本哲雄)

上位は次の通り。
クラス1(疾風(尾道市)のエルベント(岡)エスプリ(三豊市)マクラス2(トウメイ(浅口市)栗嶺の五時間四十分は二艇)

